# ASTERIA Warp Salesforce Adapter
# REST API
# ユーザマニュアル

Ver5.1.1

パナソニック デジタル株式会社

2026年10月22日発行

（第１４版）

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# 改訂履歴

| | | |
|---|---|---|
| 初版 | 2021/03/31 | |
| 第２版 | 2021/07/14 | バージョン4.0.1に伴う改訂 |
| 第３版 | 2022/01/17 | バージョン4.0.2に伴う改訂 |
| 第４版 | 2022/05/09 | バージョン4.1.0に伴う改訂 |
| 第５版 | 2022/11/21 | 証明書のインストール手順を修正 |
| 第６版 | 2022/12/23 | バージョン4.1.1に伴う改訂 |
| 第７版 | 2023/11/21 | バージョン4.1.2に伴う改訂 |
| 第８版 | 2024/05/31 | アダプター置換えインストール手順を追加 |
| 第９版 | 2024/08/01 | バージョン4.2.0に伴う改訂 |
| 第１０版 | 2025/01/15 | バージョン5.0.0に伴う改訂 |
| 第１１版 | 2026/03/01 | バージョン5.1.0に伴う改訂 |
| 第１２版 | 2026/04/01 | 社名変更に伴う改訂 |
| 第１３版 | 2026/06/15 | バージョン5.1.1に伴う改訂 |
| 第１４版 | 2026/10/22 | OAuth接続設定手順を修正 |

◇記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。
◇このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で
使用、複製することは出来ません。
◇このソフトウェアの仕様、およびマニュアルに記載されている事柄は
将来予告なしに変更することがあります。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# 目次


１．概要 4

２．前提条件 4
２．１　対応するバージョン 4
２．２　アダプタのバージョンアップを行う場合 4
２．３　REST APIの利用権限 4
２．４　動作環境 4
２．５　開発ライセンス制限 4

３．インストール 5
３．１　ASTERIA Warp のインストール 5
３．２　Flow Designer のインストール 5
３．３　Salesforce Adapterのインストール 5
３．４　バージョンアップ、試用版から製品版への置換えを行う場合 9
３．５　Proxy サーバ使用時の設定 10
３．６　接続設定 11
３．７　ルート証明書のインストール 14
３．８　証明書のインストール 14

４．アンインストール 15

５．コンポーネント機能 16
５．１　REST API 各コンポーネント 16
５．２　RESTLogin　コンポーネント 17
５．３　RESTQuery　コンポーネント 20
５．４　RESTCreate コンポーネント 30
５．５　RESTUpdate コンポーネント 37
５．６　RESTDelete コンポーネント 44
５．７　RESTUpsert コンポーネント 48
５．８　RESTLogout コンポーネント 55


Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# １．概要

REST APIコンポーネントはsalesforce.comのREST APIを利用する事で
ASTERIA Warpのフローサービスからsalesforce.comとのデータ連携機能を提供します。

# ２．前提条件

ASTERIA Warp Salesforce Adapter を適用するに当たって、以下の項目が前提条件となります。

## ２．１ 対応するバージョン

ASTERIA Warp Salesforce Adapterの動作を保証するREST APIのバージョンは
下記のバージョンとします。
API 50.0 から 65.0　（2026年1月現在）

## ２．２ アダプタのバージョンアップを行う場合

バージョン4.2.0以前からバージョン5.0.0以降へのバージョンアップを行う場合、
SOAP機能の廃止に伴い、事前にコンポーネントの置き換え作業が必要となる場合があります。
詳細は製品に同梱されている「SalesforceSOAP-REST置換えマニュアル」をご参照下さい。

## ２．３ REST APIの利用権限

ASTERIA Warp Salesforce Adapter REST APIコンポーネントは、
REST APIに接続してデータの操作を行ないますので、
接続を行うユーザには、REST APIの利用権限が必要です。

## ２．４　動作環境

日本語環境で稼働するASTERIA Warp 2412以降のバージョンで動作いたします。
ASTERIA Warpの動作環境につきましてはASTERIA Warpのパンフレットをご参照ください。

※英語版OS環境での動作は保証しておりません。
　Linux環境などではロケール設定にもご注意をお願いいたします。

## ２．５　開発ライセンス制限

アダプタ開発ライセンスは、 ASTERIA Warpの開発・テストライセンスを保有していることを
前提条件とし開発・テストが目的のサーバに導入し使用することを許諾します。

本番系のASTERIA Warpに導入を行っての本番使用はできません。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# 3．インストール

## 3．1 ASTERIA Warpのインストール

ASTERIA Warpをインストールしていない場合は、ASTERIA Warpを通常どおりにインストールして下さい。

## 3．2 ASTERIA Warpフローデザイナーのインストール

ASTERIA Warpフローデザイナー（以下、フローデザイナー）をインストールしていない場合は、Flow Designerを通常どおりにインストールして下さい。

## 3．3 Salesforce Adapterのインストール

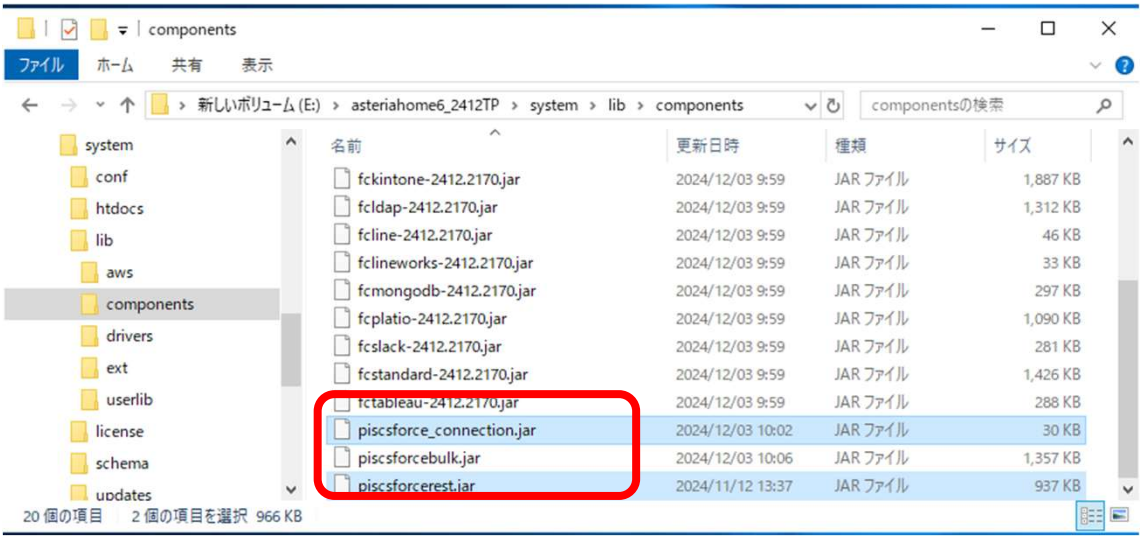
ASTERIA Warp Salesforce Adapterのインストールは以下の手順で実施してください。
提供されるファイルは以下のファイルです。

| ファイル名 | 内容 |
|---|---|
| piscsforcerest.jar | ASTERIA Warp Salesforce Adapter REST APIのJARファイル<br>配布CDではフォルダSalesforceAdapterに設置されています |
| piscsforce_connection.jar | ASTERIA Warp Salesforce 専用コネクションのJARファイル<br>配布CDではフォルダSalesforceAdapterに設置されています |

1）ASTERIA Warpが起動している場合は、ASTERIA Warpを停止してください。

2）JARファイルを以下の場所に保存します。

¥（ASTERIA Warp HOME DIRECTORY）¥system¥lib¥components

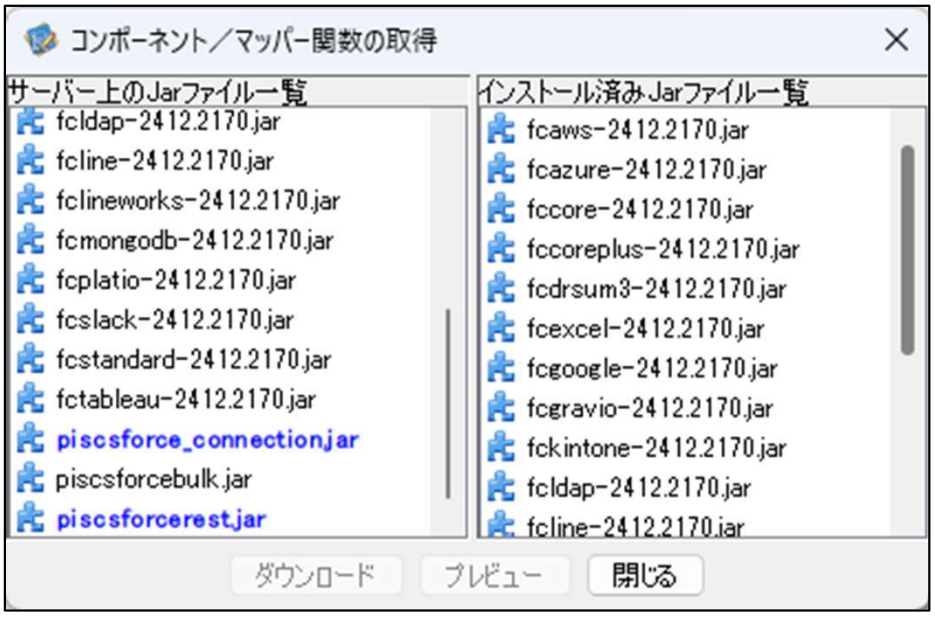



Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

３）ASTERIA Warpを起動してください。

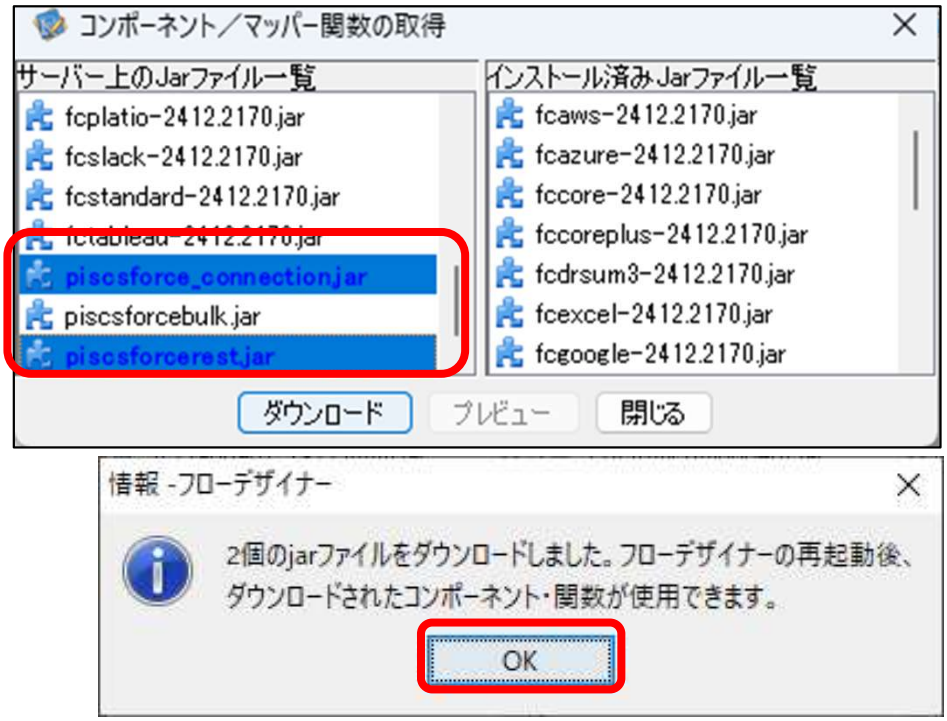
４）**フローデザイナー**を起動してください。Saleceforce Adapterをインストールしたサーバにログインしてください。

５）**フローデザイナー**画面のメニューから**[ツール]-[コンポーネント／マッパー関数の取得]**を選択して下さい。**コンポーネント/マッパー関数の取得**画面が表示されます。




Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

6）画面左のサーバ上のJarファイル一覧よりpiscsforce.jarを選択し、ダウンロードボタンをクリックします。




確認画面が出たらＯＫボタンをクリックします。続けてコンポーネント/マッパー関数の取得画面の閉じるボタンをクリックします。

7）フローデザイナーを再起動させます。

8）パレットの更新が表示されます




Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

９）Salesforceタブを選択すると7個のアダプタが登録されているのが確認できます。




これでSalesforce Adapterのインストールは完了です。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# ３．４ バージョンアップ、試用版から製品版への置換えを行う場合

ASTERIA Warp Salesforce Adapterのインストール手順については
３．３ Salesforce Adapterのインストールと同様の手順となりますが
バージョンアップ、試用版から製品版への置換えの場合、
下記フォルダに既に同名のJarファイルが存在しておりますので
Jarファイルを配置する際に置換えまたは上書きが必要となります。

¥（ASTERIA Warp HOME DIRECTORY）¥system¥lib¥components

| ファイル名 | 内容 |
|---|---|
| piscsforcerest.jar | ASTERIA Warp Salesforce Adapter REST APIのJARファイル<br>配布CDではフォルダSalesforceAdapterに設置されています |
| piscsforce_connection.jar | ASTERIA Warp Salesforce 専用コネクションのJARファイル<br>配布CDではフォルダSalesforceAdapterに設置されています |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# ３．５ Proxyサーバ使用時の設定

１）フローサービス管理コンソール（以下、管理コンソール）画面より[**設定**]-[**プロキシ**]を開いてください。

２）プロキシサーバの編集ボタンをクリックし編集画面を開いてください。

３）HTTP,HTTPSの両方にプロキシサーバのアドレス、ポート番号を入力し**保存**をクリックして下さい。




Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# ３．６ 接続設定

## ・OAuth認証を利用する場合（専用コネクション）

**※ ASTERIA Warp Salesforce Adapter REST APIコンポーネントは**
**専用コネクションを使用して接続します。**
**※Salesforce設定の詳細については必ずSalesforce社の資料をご確認下さい。**

**【Salesforce設定】**

１）接続対象のSalesforce組織にWebブラウザでログインしてください。

２）[設定]-[アプリケーション]-[外部クライアントアプリケーション]
-[外部クライアントアプリケーションマネージャー]を開いてください。

３）新規外部クライアントアプリケーションボタンを押してください。

４）[新規外部クライアントアプリケーション]で下記の項目を入力してください。
※(例)は入力値の一例です。下記以外の項目は初期値のままで構いません。

| 項目名 | 設定値 |
|---|---|
| 基本情報 | |
| 外部クライアントアプリケーション名 | (例)ASTERIA |
| API参照名 | (例)ASTERIA |
| 取引先責任者 メール | (例)sample@sample.com |
| API (OAuth 設定の有効化) | |
| OAuth 設定の有効化 | チェックあり |
| コールバック URL | (例)https://login.salesforce.com/services/oauth2/success |
| 選択した OAuth 範囲 | APIを使用してユーザーデータを管理(api)<br>いつでも要求を実行(refresh_token,offline_access) |
| サポートされる認証フローにProof Key for Code Exchange (PKCE)拡張を要求　※1 | チェックなし |
| 更新トークンのローテーション<br>を有効化　※1 | チェックなし |

**※1 デフォルトで編集不可になっておりますのでSalesforceのサポートに**
**解除を依頼して頂く必要がございます。**

５）作成ボタンを押してください。

６）[API (OAuth 設定の有効化)]のコンシューマ鍵、コンシューマの秘密をメモしてください。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

7）Webブラウザで別タブを開き、下記URLのコンシューマ鍵とコールバック URLを置換して
アクセスしてください。
https://login.salesforce.com/services/oauth2/authorize?response_type=code&
client_id=コンシューマ鍵&redirect_uri=コールバック URL

8）Webブラウザ画面に「アクセスを許可しますか？」が表示されるので、許可ボタンを押してください。

9）遷移後のWebアドレスバーに記載されているURLを確認し、認証コードをメモしてください。
https://login.salesforce.com/services/oauth2/success?code=認証コード

１０）下記URLに各パラメータをボディデータとしてPOST送信し、
アクセストークンをリクエストしてください。

https://login.salesforce.com/services/oauth2/token

| パラメーター名 | パラメーター値 |
|---|---|
| grant_type | authorization_code |
| code | ９）で取得した認証コードを設定します |
| client_id | ６）で取得したコンシューマ鍵を設定します |
| client_secret | ６）で取得したコンシューマの秘密を設定します |
| redirect_uri | コールバック URLを設定します |

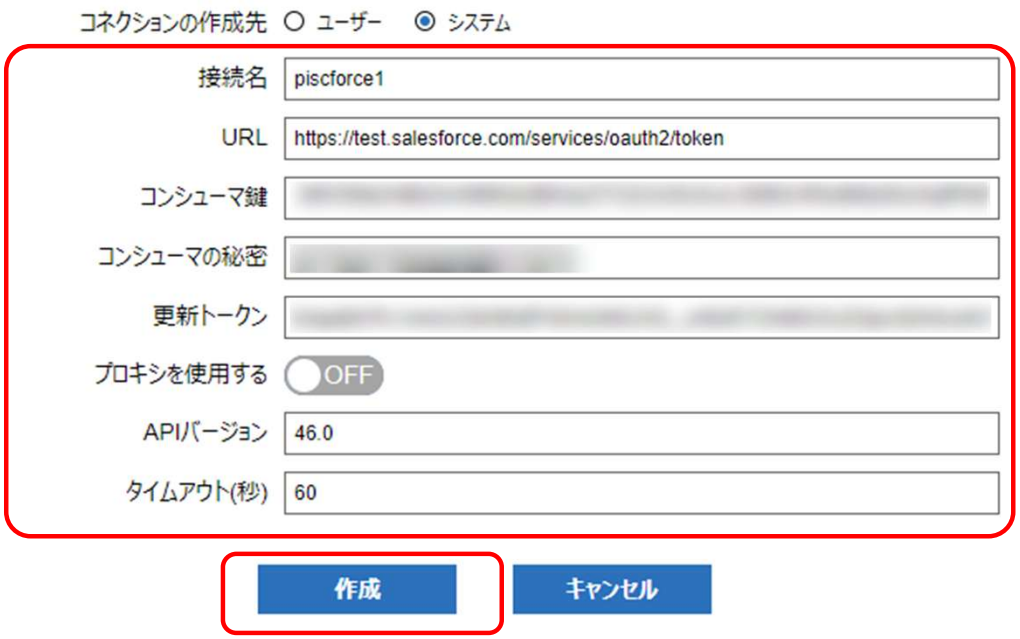
１１） 応答データの更新トークン「 refresh_token 」をメモしてください。

【ASTERIA設定】

１２）管理コンソール画面より[設定]-[コネクション]-[piscforce]を開いてください。

１３）新規ボタンを押してください。

新規




Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

１４）接続名を入力します。

１５）パラメーターは下記の項目を入力、追加してください。

| パラメーター名 | パラメーター値 |
|---|---|
| URL | OAuth 2.0 認証エンドポイントURL<br>https://login.salesforce.com/services/oauth2/token<br>https://test.salesforce.com/services/oauth2/token |
| コンシューマ鍵 | コンシューマ鍵 |
| コンシューマの秘密 | コンシューマの秘密 |
| 更新トークン | 更新トークン ※2 |
| プロキシを使用 | プロキシサーバを利用する場合はON、利用しない場合はOFF |
| APIバージョン | 使用APIのバージョン　（小数第一位まで入力　例 68.0） |
| タイムアウト(秒) | タイムアウトまでの時間（秒） |

※2　Salesforce側の仕様により更新トークンについては30日間未使用の場合、無効となります。
　　無効となった場合、再度更新トークン取得の手順を実施する必要がございます。

１６）作成ボタンを押してください。

１７）フローデザイナー上で使用しているSalesforceの各コンポーネントのコネクションプロパティには
　１４）で入力した接続名を選択してください。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# 3．7 ルート証明書のインストール

**※通常、この作業は必要ありません。**
**ASTERIA Warpのバージョンによりデフォルトインストールされた**
**サーバー認証局が異なるため、Salesforceへの接続に必要なSSL証明書が足りず**
**接続テストでSSL証明書のエラーが発生することがあります。**

**SSL証明書のエラーが発生した場合、または**
**Salesforce社よりルート証明書変更の連絡があった場合に実施ください。**

1）フローサービス管理コンソール(FSMC)にアクセスしていただき、
[設定]-[SSL]-[サーバ認証局]の一覧にてSalesforce社より指定された証明書が存在するか確認

1－1）該当の証明書が存在する場合
・特に作業は不要です。

1－2）該当の証明書が存在しない場合
・Salesforce社に指定された証明書を取得頂き、サーバ認証局に追加ください。

# 3．8 証明書のインストール

**※通常、この作業は必要ありません。**
**3．7のルート証明書のインストールを実施しても**
**SSL証明書のエラーが解消できない場合のみ、本作業を行なって下さい。**

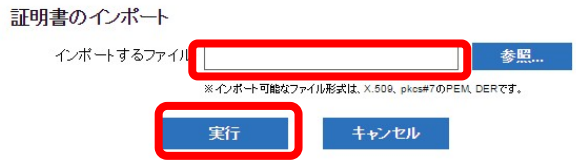
1）https://login.salesforce.com/　にアクセスしていただき、証明書のルート認証局をご確認ください。

2）上記のルート認証局の証明書を入手ください。
ASTERIA Warpにインポート可能な証明書の形式は、X.509、pkcs#7のPEM、DERになりますので、
ご注意ください。

3）フローサービス管理コンソールを開きログインしてください。

4）[設定]-[SSL]-[サーバ認証局]画面
より追加ボタンを押してください。

5）証明書のインポート画面で、
2）で入手したファイルを
選択してください。




6）実行ボタンを押してください。

※上記作業後もエラーが発生する場合は、https://login.salesforce.com/にて
ログインを行った後の画面（https://<My Domain>.my.salesforce.com/）も同様に証明書を取得し
インポートを行ってください。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# 4．アンインストール

ASTERIA Warp Salesforse AdapterのアンインストールはASTERIA Warpのアンインストールで実施可能です。

ASTERIA Warpのアンインストール方法については、別途準備されておりますASTERIA Warpのマニュアルをご参照ください。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# 5．コンポーネント機能

## 5．1　Salesforce Adapter各コンポーネント

以下はフローデザイナーの画面イメージです。ASTERIA Warp Salseforce Adapter　REST APIの各コンポーネントはSalesforceタグの中に梱包されております。




| 名称 | アイコン | 説明 |
|---|---|---|
| RESTLoginコンポーネント | REST Login | REST APIにログインします。 |
| RESTQuery コンポーネント | REST Query | Queryを実行してデータを取得します。 |
| RESTCreate コンポーネント | REST Create | 新規にデータを作成します。 |
| RESTUpdate コンポーネント | REST Update | データを更新します。 |
| RESTDelete コンポーネント | REST Delete | データを削除します。 |
| RESTUpsert コンポーネント | REST Upsert | 外部IDを利用して、既に存在するレコードの場合にはUpdate、それ以外はInsertを行います。 |
| RESTLogout コンポーネント | REST Logout | REST APIからログアウトします。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# ５．２ RESTLoginコンポーネント

RESTLoginコンポーネントの機能、プロパティ項目、適用方法について以下に示します。

## REST Loginコンポーネント

REST APIのloginを使用してSalesforceにログインします。
ログイン成功時にREST APIから取得されるserverUrlとsessionIDはコンポーネント内部で管理され、以下のコンポーネント実行時に使用されます。

・RESTQuery
・RESTCreate
・RESTUpdate
・RESTDelete
・RESTUpsert
・RESTLogout

**・ログイン情報の関連付けについて**

**リクエストに関連付:いいえ**
初期設定です。
従来と同様に、フローのセッションと関連付けてログイン情報が保持されます。
セッションが有効である間は、同一セッション内で実行されるコンポーネントでログイン情報は有効になります。

**リクエストに関連付:はい**
ログイン情報をリクエストと関連付けした場合、ログイン情報は該当のリクエスト内でのみ有効となります。
この特徴を利用し、ParallelSubFlow内で実行するフローのログイン先を別個に設定し、複数アカウントに対して並列処理を行うことが可能です。
**※複数のSandbox環境にまたがってログインすることは出来ません。**

RESTLoginコンポーネントはSalesforceアダプタVer5.0.0より再表示されました。
REST APIを使用する場合、RESTLoginコンポーネントを使用しなくても、
以下の各処理系コンポーネントにおいて自動的にログインが実行されます。
（RESTQuery、RESTCreate、RESTUpdate、RESTDelete、RESTUpsert）

ログイン処理をフロー内で明示する場合、及びBulkコンポーネントを使用する場合、
RESTLoginコンポーネントを使用してSalesforceにログインします。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

| 項番 | プロパティ名 | 説明 |
|---|---|---|
| 1 | 接続名 | **コネクションペイン**または**管理コンソール**にて作成された**専用コネクション**を<br>指定することで以下の設定を行うことができます。<br>・ログイン先のREST APIサーバのURL<br>・**Proxy**サーバの使用の有無<br>（専用コネクションのパラメーター「プロキシを使用する」）<br>・通信時の無応答タイムアウト時間<br>（専用コネクションのパラメーター「タイムアウト(秒)」） |
| 2 | URL | ログイン成功時に**REST API**から取得できる**instanceUrl**が設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると、<br>セッションにこれらの情報を直接設定することが可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |
| 3 | SessionID | ログイン成功時に**REST API**から取得できる**access_token**が設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると,<br>セッションにこれらの情報を直接設定することも可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |
| 4 | リトライ回数 | 通信エラー発生時に自動的にリトライするカウントを指定します。<br>何も指定しない場合はリトライしません。 |
| 5 | リトライ間隔 | 上記リトライ時に再度接続リクエストを送るまでの間隔をミリ秒単位で<br>指定します。<br>何も指定しない場合は5000ミリ秒でリトライします。 |
| 6 | リクエストに<br>関連付 | ログイン情報をセッションではなく、リクエストに関連付ける場合<br>″はい″に設定して下さい。<br>リクエストに関連付けを行うと、異なるリクエストではログイン情報を<br>共有しません。ParallelSubFlowコンポーネントで実行するサブフロー内で、<br>異なるユーザでログインして処理を行うことが可能です。<br>この機能を用いるためには、<br>RESTLoginコンポーネントでログイン処理を行う際にリクエストに関連付を<br>″はい″に設定しておく必要があります。 |
| 7 | 通信ログ出力 | 通信ログを出力する場合は″概要″、または″詳細″に設定して下さい。<br>・概要：接続先URLとHTTPヘッダの内容を出力します<br>・詳細：上記に加えてHTTPボディの内容を出力します<br>・いいえ：通信ログを出力しません<br>通信ログはシステムログのFlowService.logに出力されます。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

RESTLoginコンポーネントのストリーム情報は下表のとおり。

| | | |
|---|---|---|
| 入力 | フォーマット | 全て |
| | 接続数 | 1 |
| | 説明 | すべてのストリームを受け入れることができます。 |
| 出力 | フォーマット | 全て |
| | 説明 | 入力ストリームがそのまま出力されます。 |

**ループ処理**

このコンポーネントがループの起点となることはありません。

RESTLoginコンポーネントのトランザクション処理は下表のとおり。

| | |
|---|---|
| Commit | 何もしません |
| Rollback | 何もしません |

RESTLoginコンポーネントのExceptionは下表のとおり。

| タイプ | パラメータ | Exceptionフローへのストリーム | エラーコード | 説明 |
|---|---|---|---|---|
| RESTFault | なし | なし | なし | 実行中にRESTFaultが発生した場合や、<br>REST APIがRESTFaultを返した場合 |
| 汎用 | なし | コンポーネントの入力ストリーム | 30 | リトライ件数に0以上の数値を<br>指定しなかった場合 |
| | | | 31 | リトライ間隔に0以上の数値を<br>指定しなかった場合 |
| | | | なし | APIサーバがREST<br>以外のレスポンスを返した場合 |
| | | | なし | 「接続名」プロパティを指定し、かつ、<br>ログイン先のREST APIのURLを設定した場合に、<br>そのURLでREST APIに接続できなかった場合 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# ５．３ RESTQueryコンポーネント

RESTQueryコンポーネントの機能、プロパティ項目、適用方法について以下に示します。

| REST Queryコンポーネント | | |
|---|---|---|
| REST APIのquery(queryAll) 使用してデータを取得します。<br>このコンポーネント1回の実行で全てのデータが取得できます。 | | |
| **項番** | **プロパティ名** | **説明** |
| 1 | 接続名 | **コネクションペイン**または**管理コンソール**にて作成された**専用コネクション**を<br>指定することで以下の設定を行うことができます。<br>・Proxyサーバの使用の有無<br>（専用コネクションのパラメーター「プロキシを使用する」）<br>・通信時の無応答タイムアウト時間<br>（専用コネクションのパラメーター「タイムアウト(秒)」） |
| 2 | 検索種別 | query、queryAllを選択します。<br>queryAll:削除されてゴミ箱に残っているデータも取得します。<br>※ゴミ箱から削除後のデータは物理削除待ちデータとなり、<br>実際に削除されるまでの間はqueryAllで取得されます。<br>物理削除待ちデータの削除はSalesforceにて不定期に実行されます。 |
| 3 | 検索条件式<br>（SOQL） | クエリーをSforce Object Query Language (SOQL)で指定します。<br>Sforce Object Query Language (SOQL)の詳細につきましては<br>REST APIのドキュメントをご参照ください。 |
| 4 | サーバ内<br>保持件数 | 一度のコンポーネントの処理で全件取得するのか、処理毎に<br>リクエスト最大取得件数単位で取得するのかを選択します。<br><br>・「ループを開始」プロパティが「はい」の場合<br>サーバ内保持件数=“All”の設定では、コンポーネントからは１件ずつ<br>レコードデータが出力されますが、最初の処理で全件のデータを取得します。<br>サーバ内保持件数=“RequestCount”の設定では、コンポーネントからは1件ずつ<br>レコードデータが出力されますが、内部的にはリクエスト最大取得件数の<br>レコード単位でループ処理を行いデータを取得します。<br>・「ループを開始」プロパティが「いいえ」の場合<br>サーバ内保持件数=“All”の設定では、コンポーネントからは全件の<br>レコードデータが出力され、最初の処理で全件のデータを取得します。<br>サーバ内保持件数=“RequestCount”の設定では、コンポーネントからは<br>リクエスト最大取得件数のレコード単位でレコードデータが出力され、<br>リクエスト最大取得件数のレコード単位でのループ処理中でデータを取得します。<br><br>※出力定義がXMLの時はサーバ内保持件数の設定は無効となり、常に全件のデータを<br>出力します。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

| 項番 | プロパティ名 | 説明 |
|---|---|---|
| ５ | リクエスト<br>最大取得件数 | 1回のquery(queryAll)で取得するデータの件数を指定します。<br>例えば、クエリーの結果が1000件あったとして、<br>このプロパティの値を200に設定した場合には、<br>コンポーネント内部で200件のデータ取得を5回繰り返すことになります。<br>このプロパティの値として指定できる最小値は200で最大値は2000です。<br>このプロパティを指定しなかった場合は500が指定されます。<br>※リクエスト最大取得件数（BatchSize）の設定はSalesforceへの要請であり、<br>Salesforce側はこの設定値を無視する場合がございます。 |
| ６ | 取得件数 | 取得されたデータ件数が設定されます。<br>出力をXMLとした場合、サブクエリに複数レコードが存在しても、<br>メインクエリのRecord要素の数がカウントされます。 |
| ７ | リトライ回数 | 通信エラー発生時に自動的にリトライするカウントを指定します。<br>何も指定しない場合はリトライしません。 |
| ８ | リトライ間隔 | 上記リトライ時に再度接続リクエストを送るまでの間隔を<br>ミリ秒単位で指定します。<br>何も指定しない場合は5000ミリ秒でリトライします。 |
| ９ | ループを開始 | 結果をまとめて出力するか1レコードずつループして出力するか選択します。<br>はい　- ループの起点となって1レコード(行)ずつストリームに出力されます。<br>いいえ- すべてのレコード(行)がまとめてストリームに出力されます。 |
| １０ | 関数実行<br>モード | 集計関数の実行モードを設定します。<br>はい　ー　列指定を行わないCOUNT()以外の関数を実行可能です。<br>例）　SELECT COUNT(Id) FROM Account　（実行可）<br>SELECT COUNT() FROM Account　（実行不可）<br>いいえー　従来の実行モードです。通常はこちらを利用して下さい。<br><br>※集約関数モードは出力がRecordの場合のみ利用可能です。<br>※関数を指定した項目は、標準ではSalesforce独自の項目名（expr0,expr1…）と<br>なるため、 出力ストリームの項目名も同じ項目名とするか、<br>またはSOQLで別名をつける必要があります。 |
| １１ | リクエストに<br>関連付 | リクエストに関連付けたログイン情報を利用する場合、″はい″に設定して下さい。<br>この機能を用いるには、同一リクエスト内のRESTLoginコンポーネントで<br>ログイン処理を行う際、リクエストに関連付を“はい”に設定する必要があります。 |
| １２ | 通信ログ出力 | 通信ログを出力する場合は″概要″、または″詳細″に設定して下さい。<br>・概要：接続先URLとHTTPヘッダの内容を出力します<br>・詳細：上記に加えてHTTPボディの内容を出力します<br>・いいえ：通信ログを出力しません<br>通信ログはシステムログのFlowService.logに出力されます。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

| 項番 | プロパティ名 | 説明 |
|---|---|---|
| １３ | URL | ログイン成功時にREST APIから取得できるinstanceUrlが設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると、<br>セッションにこれらの情報を直接設定することが可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |
| １４ | SessionID | ログイン成功時にREST APIから取得できるaccess_tokenが設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると,<br>セッションにこれらの情報を直接設定することも可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |
| １５ | SOQL Parameter | Sforce Object Query Language (SOQL)中にパラメータ書式を埋め込むことにより、<br>SOQLParameterの値を置換文字列として使用することができます。<br>詳細につきましてはトピックを参照してください。 |

RESTQueryコンポーネントのストリーム情報は下表のとおり。

| | | |
|---|---|---|
| 入力 | フォーマット | 全て |
| | 接続数 | 1 |
| | 説明 | すべてのストリームを受け入れることができます。 |
| 出力 | フォーマット | Record、XML |
| | 説明 | クエリー結果が出力ストリームとなります<br>※サブクエリの結果の取得はXMLの時のみとなります。 |

**ループ処理**

**「ループを開始」**プロパティが**「はい」**の場合、このコンポーネントがループの起点となって、

クエリー結果のレコードは1レコードずつ出力されます。

RESTQueryコンポーネントのトランザクション処理は下表のとおり。

| | |
|---|---|
| Commit | 何もしません |
| Rollback | 何もしません |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

RESTQueryコンポーネントのExceptionは下表のとおり。

| タイプ | パラメータ | Exceptionフローへのストリーム | エラーコード | 説明 |
|---|---|---|---|---|
| RESTFault | なし | コンポーネントの入力ストリーム | なし | 実行中にRESTFaultが発生した場合や、APIサーバがRESTFaultを返した場合 |
| レコードが存在しない | なし | コンポーネントの入力ストリーム | 24 | クエリー結果が0件の場合 |
| 汎用 | なし | コンポーネントの入力ストリーム | 20 | Query文中のSOQLパラメータが閉じられていない場合 |
| | | | 21 | 定義されていないSOQLパラメータがQuery文中で使用されている場合 |
| | | | 22 | Query文に誤りがある場合 |
| | | | 23 | 出力ストリーム作成時に、フィールドの型変換に失敗した場合 |
| | | | 30 | リトライ件数に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | 31 | リトライ間隔に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | なし | APIサーバがREST以外のレスポンスを返した場合 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

**Query文（SOQL文）とフィールド定義の関係**

SELECT文中の各カラムとASTERIA Warpでのフィールド定義は順序によって
マッピングされます。
そのため、フィールド名がSELECT文中のカラム名と一致する必要はありません。
SELECTされたカラムのデータ型が、対応するフィールド定義のデータ型と
異なる場合はExceptionとなります。

**SOQLParameterの使い方**

・SQL中にパラメータ書式を埋め込むことにより、SOQLParameterの値を置換文字列として
使用することができます。パラメータ書式は、「$パラメータ名$」となります。
・置換文字列はSOQL文中の任意の個所で使うことができます。クエリーが実行される前に
置換文字列パラメータはASTERIA WarpによってSOQLParameterの値に置換されます。
SOQLParameterの型はStringとして定義してください。
・SOQL文の中に「$」という文字自身を使用したい場合は「$$」のようにエスケープします。
例えば、Queryプロパティの値（SOQL文）が
select Website, Name from Account where Name = '*$name$*'
の場合にSOQLParameterが
name=Golden Straw
であれば、実際にクエリーに使用されるSOQL文は
select Website, Name from Account where Name = '*Golden Straw*'
となります。

**SOQL文の制限について**

基本的にREST APIの仕様に準じますが、代表的なものとしては次がございます。
・Group byと同時にLIMITを指定することはできない。
・Group byを利用する場合、リクエスト最大取得件数以上の結果を得ることはできない。
※詳細については必ずSalesforce社の資料をご確認下さい。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

**日付型（Date型）のデータ取得について**

Salesforceの日付型（Date型）をASTERIAのDateTime型で出力する際に時間情報が付与されます。
Salesforceでは内部的にUTC（GMT）の深夜12時で保持しておりますが
Salesforce Adapterではシステムのタイムゾーンの00:00:00.000が付与されます。
FormatDate関数等で日付データの加工を行う場合、
タイムゾーンはデフォルト設定（システムのタイムゾーン）のままで時差の変換なくご利用頂けます。
タイムゾーンを変更される場合、時差の変換に伴い日付や時間が変わることがあります。

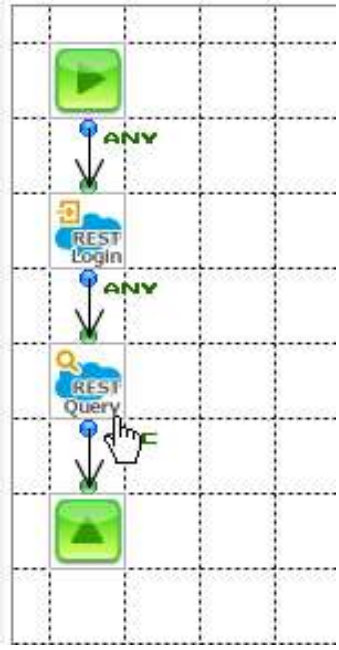
例：2022-01-01T00:00:00.000 JSTをGMTへ変換した場合
　マイナス9時間される為、2021-12-31T15:00:00.000 GMTとなります。

Salesforce Adapter Ver 4.0.2以降のバージョンより、Salesforceの日付型（Date型）の
データの出力形式が変更になります。
　例：データが「2022-01-01」の場合
　　旧）2022-01-01
　　新）2022-01-01T00:00:00.000 JST　※システムのタイムゾーン
従来と同じ形式で出力したい場合は、後続の処理にてデータの加工をお願い致します。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

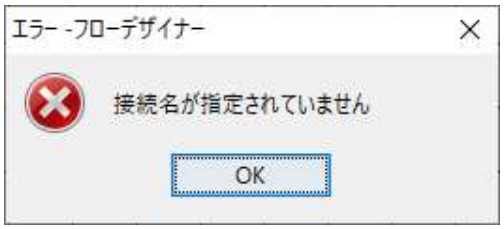
# SOQLBuilderの利用方法

## ・SOQLBuilderの起動




**SOQLBuilderは次のいずれかの方法で起動します。**

・RESTQueryコンポーネントのアイコンを
右クリックして表示されるメニューの「SOQLの生成」
をクリックします。
・RESTQueryコンポーネントのアイコンをダブル
クリックします。

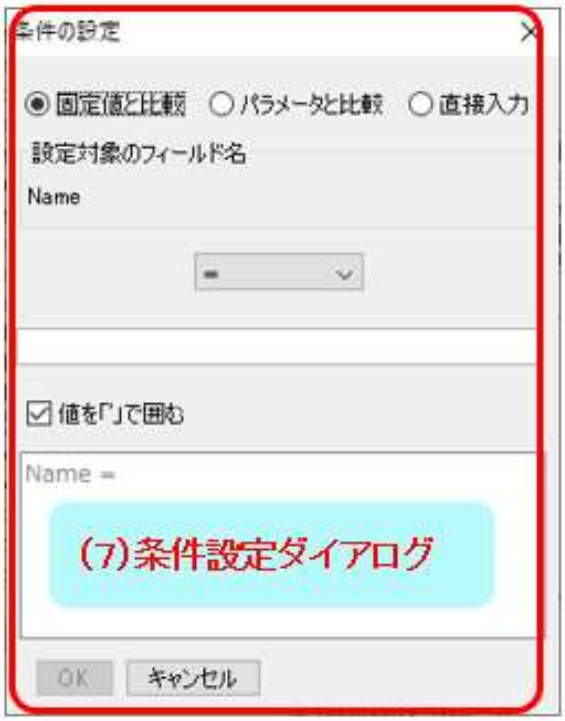



**コネクションが指定されていない場合、その旨が表示されて終了します。**

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

## ・SOQLBuilderの画面構成







Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

**(1)sObjectリストパネル**
接続先のsObject一覧が表示されます。
上部の検索窓から、英語名と日本語名で絞込み検索が可能です。
リストからsObjectをダブルクリックするとsObject詳細パネルに詳細が表示されます。

**(2)sObject詳細パネル**
リストで選択したsObjectの詳細が表示されます。
左側チェックボックスで選択したフィールドがSOQLに反映されます。
右クリックから以下のメニューが呼び出せます。

**タブ上**
「このタブを削除」　選択中のタブを削除します。※リレーションで追加されたタブのみ
「すべてを選択」　チェックボックスをすべて選択状態にします。
「選択をすべて解除」　チェックボックスを全て未選択の状態にします。
**パネル内でフィールド未選択時**
「このタブを削除」　選択中のタブを削除します。※リレーションで追加されたタブのみ
「すべてを選択」　チェックボックスをすべて選択状態にします。
「選択をすべて解除」　チェックボックスを全て未選択の状態にします。
**パネル内でフィールド選択時**
「このリレーションを追加」　リレーションが存在する場合のみ新たなタブを追加します。
「条件を追加」　条件設定ダイアログを呼び出します。
「すべてを選択」　チェックボックスをすべて選択状態にします。
「選択をすべて解除」　チェックボックスを全て未選択の状態にします。

**(3)リレーションパネル**
親リレーションを追加している場合、その相関関係がツリー状に表示されます。
sObject詳細パネルで選択中のタブには赤枠が表示されます。
ツリー内のパネルを選択すると対応するsObject詳細のタブが選択されます。

**(4)SOQLパネル**
作成中のSOQLが表示されます。 直接編集することも可能です。
ここに表示された内容がデザイナーのSOQLプロパティに反映されます。

**(5)フィールドパネル**
下部のタブにより、３つのパネルを切り替えます。

**・フィールド設定**
デザイナーのフィールド設定が反映されます。
設定パネルにて「フィールド設定を同期する」にチェックが入っているとSOQL生成時に
フィールドが自動的に設定されます。 リレーション先のフィールドを取得している場合、
[リレーション名].[フィールド名]のようにドットで連結されます。
フィールド設定のJAVAデータ型は以下のルールで設定されます。
※xsd:double型については、桁落ちを防止するためDecimal型で設定されます。
　String型、Double型にした場合桁落ちが発生する場合があります

| sObjectデータ型 | JAVAデータ型 |
|---|---|
| xsd:boolean | Boolean |
| xsd:double | Decimal |
| xsd:datetime xsd:date | DateTime |
| その他 | String |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

・SOQLParameter
デザイナーのSOQLParameterタブが反映されます。
ここから、新たなSOQLParameterを設定することも可能です。

・条件設定
sObject詳細の「条件で追加」ダイアログから追加された条件設定が反映されます。
2つ以上の設定が存在する場合、初期設定では「関係」はANDに設定されます。

(6)設定パネル
・SOQLを常に同期する
初期設定ではOFFです。
この項目にチェックが入っていると、設定内容が即時SOQLに反映されます。

・SOQLをインデントする
初期設定ではONです。
この項目にチェックが入っていると、SOQLが自動的に改行されます。

・フィールド設定を同期する
初期設定ではONです。
この項目にチェックが入っていると、SOQLの設定内容に合わせて出力フィールドが自動的に設定されます。

・SOQLに反映する
ボタンを押すと、現在の設定でSOQLが生成されます。

・SOQLのテスト実行
SOQLパネルに表示されているSOQLをテスト実行します。
結果はJSON（RAW）と表（Records）で表示されます。
※テスト実行時は取得件数が100件に制限されます。

(7)条件設定ダイアログ
sObject詳細にて「条件を追加」を選択すると呼び出されるダイアログです。
選択中のフィールドに対して、固定値、SOQLParameter、直接編集の３つの方法で、条件式を設定することが可能です。

(8)SOQLテスト実行結果ダイアログ
SOQLテスト実行時に表示されるダイアログです。
結果はQueryに対するRESTレスポンスがJSON(Raw)と表(Records)として出力されます。

■SOQLBuilder利用時に同期可能な情報

・検索条件式（SOQL）
・Record型の出力フィールド設定
※出力がXML型の場合もSOQLBuilderの実行は可能ですが、フィールド設定は同期されません。
・SOQLParameterの設定
・SOQL詳細パネルの選択状態
・条件設定
・設定パネルの選択状態

■ご注意

・接続先のSalesforceに存在しないオブジェクトは再現されません。
※APIバージョンや接続先が異なる場合などが考えられます。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.




# ５．４　RESTCreateコンポーネント

RESTCreateコンポーネントの機能、プロパティ項目、適用方法について以下に示します。

| REST Createコンポーネント | | |
|---|---|---|
| REST APIのcreateを使用して新規にデータを追加します。<br>200件以上のデータを追加する時は「**単位件数**」で指定した値にレコードを分割し追加を行います。 | | |
| **項番** | **プロパティ名** | **説明** |
| 1 | 接続名 | **コネクションペイン**または**管理コンソール**にて作成された**専用コネクション**を指定することで以下の設定を行うことができます。<br>・Proxyサーバの使用の有無<br>（専用コネクションのパラメーター「プロキシを使用する」）<br>・通信時の無応答タイムアウト時間<br>（専用コネクションのパラメーター「タイムアウト(秒)」） |
| 2 | sObject名 | 新規にデータを追加する対象となるsObjectの名称を指定します。<br>sObjectの名称としては、REST APIのdescribeGlobalを実行して得られるnameの値を指定します。 |
| 3 | ロールバック | 作成に失敗したデータが存在する場合、ロールバックを行うかを指定します。<br>ロールバックを行う場合、入力可能なデータ数は200件に制限されます。<br>200件を超えるデータが入力された場合には、エラーが発生します。 |
| 4 | Assignment RuleType | sObject名プロパティの値がCaseまたはLeadの場合に表示されます。<br>追加するデータに適用するassignment ruleのタイプを指定します。<br>none　- assignment ruleを適用しません。<br>default - default (active) assignment rule を適用します。<br>ID　　- 適用するassignment ruleをAssignmentRuleオブジェクトのIDで指定します。IDはAssignmentRuleIDプロパティで指定します。 |
| 5 | Assignment RuleID | sObject名プロパティの値がCaseまたはLeadの場合に表示されます。<br>AssignmentRuleTypeプロパティがIDの場合にのみ有効です。<br>assignment ruleとして適用するAssignmentRuleオブジェクトのIDを指定します。 |
| 6 | 単位件数 | 指定された値で入力レコードを分割して追加します。<br>1～200の値を指定します。<br>ロールバックを「はい」に設定した場合には200に固定されます。 |
| 7 | 登録試み件数 | 入力ストリームのレコードの数が設定されます。 |
| 8 | 成功件数 | データの追加に成功した数が設定されます。 |
| 9 | 失敗件数 | データの追加に失敗した数が設定されます。 |
| １０ | 失敗時エラーにする | 失敗件数が0以外の場合にエラーを発生させるかどうかを選択します。<br>・はい：エラーを発生します。<br>・いいえ：正常終了します。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

| 項番 | プロパティ名 | 説明 |
|---|---|---|
| １１ | 正常ログ<br>出力先 | 登録に成功したレコードのログを出力する為のファイルパスを指定します。<br>区切り文字「¥」と「/」は区別されません。<br>相対パスの場合は相対パスの起点の指定に基づいて解釈されます。<br>例：directory/file.txt　　C:¥directory¥file.txt　　¥¥server¥share¥file.txt |
| １２ | 相対パスの<br>起点 | 正常ログ出力先が相対パス指定の場合にベースディレクトリとして<br>何を使うかを指定します。<br>プロジェクトフォルダ<br>　- プロジェクトファイルと同じフォルダを起点にします。<br>ホームディレクトリ<br>　- ユーザのホームディレクトリを起点にします。<br>実行ユーザのホームディレクトリ<br>　- 実行ユーザのホームディレクトリを起点にします。 |
| １３ | エラーログ<br>出力先 | 登録に失敗したレコードのログを出力する為のファイルパスを指定します。<br>区切り文字「¥」と「/」は区別されません。<br>相対パスの場合は相対パスの起点の指定に基づいて解釈されます。<br>例：directory/file.txt　　C:¥directory¥file.txt　　¥¥server¥share¥file.txt |
| １４ | 相対パスの<br>起点 | エラーログ出力先が相対パス指定の場合にベースディレクトリとして<br>何を使うかを指定します。<br>プロジェクトフォルダ<br>　- プロジェクトファイルと同じフォルダを起点にします。<br>ホームディレクトリ<br>　- ユーザのホームディレクトリを起点にします。<br>実行ユーザのホームディレクトリ<br>　- 実行ユーザのホームディレクトリを起点にします。 |
| １５ | リトライ回数 | 通信エラー発生時に自動的にリトライするカウントを指定します。<br>何も指定しない場合はリトライしません。 |
| １６ | リトライ間隔 | 上記リトライ時に再度接続リクエストを送るまでの間隔を<br>ミリ秒単位で指定します。<br>何も指定しない場合は5000ミリ秒でリトライします。 |
| １７ | リクエストに<br>関連付 | リクエストに関連付けたログイン情報を利用する場合、″はい″に設定して下さい。<br>この機能を用いるには、同一リクエスト内のRESTLoginコンポーネントで<br>ログイン処理を行う際、リクエストに関連付を“はい”に設定する<br>必要があります。 |
| １８ | 通信ログ出力 | 通信ログを出力する場合は″概要″、または″詳細″に設定して下さい。<br>・概要：接続先URLとHTTPヘッダの内容を出力します<br>・詳細：上記に加えてHTTPボディの内容を出力します<br>・いいえ：通信ログを出力しません<br>通信ログはシステムログのFlowService.logに出力されます。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

| 項番 | プロパティ名 | 説明 |
|---|---|---|
| １９ | URL | ログイン成功時にREST APIから取得できるinstanceUrlが設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると、<br>セッションにこれらの情報を直接設定することが可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |
| ２０ | SessionID | ログイン成功時にREST APIから取得できるaccess_tokenが設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると,<br>セッションにこれらの情報を直接設定することも可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |
| ２１ | 入力順<br>sObject名 | 2つ目以降の入力ストリームについて、処理対象のsObject名が設定されます。<br>このプロパティは「作成対象の選択」ダイアログで複数のオブジェクトを<br>設定した場合に、自動的に設定されます。<br>入力名　　-　対象の入力ストリーム名です。<br>sObject名　　-　入力ストリームに関連付けるsObject名が指定されます。 |

RESTCreateコンポーネントのストリーム情報は下表のとおり。

| | | |
|---|---|---|
| 入力 | フォーマット | Record |
| | 接続数 | 1-10 |
| | 説明 | 入力ストリームのフィールド定義を行います。<br>入力ストリームのフィールド名が、そのまま追加するsObjectのフィールド名として使用されます。<br>したがって、入力ストリームのフィールド名としては必ず追加対象となるsObjectの正しいフィールド名を指定するようにしてください。 |
| 出力 | フォーマット | XML |
| | 説明 | REST APIのcreateを実行した結果としてAPIサーバから返されるJSONデータがXMLに変換されます。<br>JSONデータの内容に関しましては、㈱セールスフォース・ドットコムのAPIドキュメントをご参照ください。 |

**ループ処理**

このコンポーネントがループの起点となることはありません。

RESTCreateコンポーネントのトランザクション処理は下表のとおり。

| | |
|---|---|
| Commit | 何もしません |
| Rollback | 何もしません |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

RESTCreateコンポーネントのExceptionは下表のとおり。

| タイプ | パラメータ | Exceptionフローへのストリーム | エラーコード | 説明 |
|---|---|---|---|---|
| RESTFault | ※1 | Exceptionが発生した直前までのREST APIのcreateを実行した結果としてAPIサーバから返されるXML。 | なし | 実行中にRESTFaultが発生した場合や、APIサーバがRESTFaultを返した場合 |
| 汎用 | なし | コンポーネントの入力ストリーム | 21 | 入力ストリームのレコード数が0だった場合 |
| | | | 30 | リトライ件数に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | 31 | リトライ間隔に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | なし | 「単位件数」に1～200以外の数値が設定された場合 |
| | | | なし | APIサーバがREST以外のレスポンスを返した場合 |
| 失敗時エラーの場合 | ※2 | REST APIのcreateを実行した結果としてREST APIサーバから返されるXML。 | 25 | 失敗時エラーにするが「はい」の場合で、失敗件数が０ではない場合 |

（※１）パラメータ

| No | Name | Description |
|---|---|---|
| 1 | 入力件数 | 入力ストリームのレコード数 |
| 2 | 成功件数 | Exceptionが発生した直前までのデータの追加に成功した数 |
| 3 | 失敗件数 | Exceptionが発生した直前までのデータの追加に失敗した数 |

（※２）パラメータ

| No | Name | Description |
|---|---|---|
| 1 | 入力件数 | 入力ストリームのレコード数 |
| 2 | 成功件数 | データの追加に成功した数 |
| 3 | 失敗件数 | データの追加に失敗した数 |
| 4 | 正常ログ | 正常ログのファイルパス |
| 5 | エラーログ | エラーログのファイルパス |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

**sObjectのDate型について　※Salesforce Rest API 49.0現在**

sObjectでDate型と定義されているフィールドに対して、ASTERIA WarpのDateTime型のデータを対応させると、タイムゾーンの関係で日付がずれる事があります。
したがって、sObjectでDate型と定義されているフィールドに対しては、ASTERIA WarpのString型のデータを対応させるようにしてください。
また、String型の内容としては、日付の情報が「yyyy-MM-dd」という文字列になるように設定してください。
例）2009年03月10日を設定する場合は、2009-03-10とString型に設定されるようにしてください。

**sObjectのTime型について　※Salesforce Rest API 49.0現在**

sObjectでTime型と定義されているフィールドは、GMT（グリニッジ標準時）で保存されています。
したがって、sObjectでTime型と定義されているフィールドに対しては、ASTERIAのString型のデータを対応させるようにしてください。
また、String型の内容としては、「HH:mm:ss」等の時間型フォーマットの末尾に「Z」を付加してください。
例）18時15分を設定する場合は、「18:15Z」とString型に設定されるようにしてください。

**「単位件数」プロパティについて**

REST APIでは一回の実行で処理できる最大のデータ件数は200件のため、**200件以上のデータを扱う場合**には、「単位件数」プロパティに値を指定することにより、データを指定したデータに分割して処理を行います。

**例）入力が500件で「単位件数」プロパティに200を指定した場合**
①200件、②200件、③100件と内部的に処理を実行します。
また上記の場合の処理②中に「RESTFault」を発生した場合
③は実行されず、ExceptionStreamに①の処理結果が設定されます。

**17桁以上の数値について（小数部を含む） ※Salesforce Rest API 49.0現在**

REST API を使用して17桁以上の数値を数値型の項目にデータを投入した際、
投入した値とは異なる値が作成されます。
また、17桁以上の数値を取得した際、保持された値とは異なる値が取得されます。
数値は近似値となり丸めが発生するためです。
近似値による誤差が許容できない場合、
REST API 以外の方法でデータ投入・取得を行って下さい。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

## ■「作成対象の選択」ダイアログの使い方

### ●「作成対象の選択」ダイアログを利用するための準備

「作成対象の選択」ダイアログを利用するためには以下の条件を満たしている必要があります。
1.コネクションペインまたは管理コンソールにて作成された専用コネクションを設定していること

### ●「作成対象の選択」ダイアログの起動方法

「作成対象の選択」ダイアログは次のいずれかの方法で起動します。
1.RESTCreateコンポーネントのアイコンを右クリックして表示されるメニューの
「作成対象の選択」をクリックします。
2.RESTCreateコンポーネントのアイコンをダブルクリックします。

### 画面構成




**(1)sObjectリストパネル**
接続先のsObject一覧が表示されます。
上部の検索窓から、英語名と日本語名で絞り込み検索が可能です。
リストからsObjectをダブルクリックするとsObject詳細パネルにタブとして追加されます。

**(2)sObject詳細パネル**
リストで追加したsObjectの詳細が表示されます。
左側チェックボックスで選択したフィールドが入力フィールドに反映されます。
タブ上で右クリックから対象タブの削除メニューを呼び出せます。
詳細パネル上で右クリックから以下のメニューが呼び出せます。

・「すべてを選択」　チェックボックスをすべて選択状態にします。
　※作成不可のフィールドはチェックされません。
・「選択をすべて解除」　チェックボックスを全て未選択の状態にします。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

●フィールド設定
選択されたフィールドは以下のデータ型でフィールドに設定されます。
※xsd:date型は、タイムゾーンの関係により日付がずれることを防止するためString型で設定されます。
※xsd:double型については、桁落ちを防止するためDecimal型で設定されます。
　String型、Double型にした場合桁落ちが発生する場合があります

| sObjectデータ型 | JAVAデータ型 |
|---|---|
| xsd:boolean | Boolean |
| xsd:double | Decimal |
| xsd:datetime | DateTime |
| その他 | String |

**「作成対象の選択」ダイアログ呼び出し時の同期について**
**sObject名とフィールド設定が設定されている場合、起動時に以下の情報が復元されます。**

sObject選択状態
フィールドチェック状態

**ご注意**
接続先に存在しないsObjectやフィールドの選択状態は復元されません。
※前回設定時と接続先やAPIバージョンが異なるケースが考えられます。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# ５．５　RESTUpdateコンポーネント

RESTUpdateコンポーネントの機能、プロパティ項目、適用方法について以下に示します。

| REST Updateコンポーネント | | |
|---|---|---|
| Salesforce REST APIのupdateを使用してデータを更新します。<br>200件以上のデータを更新する時は、「**単位件数**」で指定した値にレコードを分割し更新を行います。 | | |
| **項番** | **プロパティ名** | **説明** |
| 1 | 接続名 | **コネクションペイン**または**管理コンソール**にて作成された**専用コネクション**を指定することで以下の設定を行うことができます。<br>・Proxyサーバの使用の有無<br>（専用コネクションのパラメーター「プロキシを使用する」）<br>・通信時の無応答タイムアウト時間<br>（専用コネクションのパラメーター「タイムアウト(秒)」） |
| 2 | sObject名 | データを更新する対象となる**sObject**の名称を指定します。<br>**sObject**の名称としては、REST APIの**describeGlobal**を実行して得られる**name**の値を指定します。 |
| 3 | ロールバック | 更新に失敗したデータが存在する場合、ロールバックを行うかを指定します。<br>ロールバックを行う場合、入力可能なデータ数は200件に制限されます。<br>200件を超えるデータが入力された場合には、エラーが発生します。 |
| 4 | Assignment RuleType | **sObject名**プロパティの値が**Case**または**Lead**の場合に表示されます。<br>更新するデータに適用する**assignment rule**のタイプを指定します。<br>**none** - **assignment rule**を適用しません。<br>**default** - **default (active) assignment rule** を適用します。<br>**ID** - 適用する**assignment rule**を**AssignmentRule**オブジェクトのIDで指定します。IDは**AssignmentRuleID**プロパティで指定します。 |
| 5 | Assignment RuleID | **sObject名**プロパティの値が**Case**または**Lead**の場合に表示されます。<br>**AssignmentRuleType**プロパティがIDの場合にのみ有効です。<br>**assignment rule**として適用する**AssignmentRule**オブジェクトのIDを指定します。 |
| 6 | 単位件数 | 指定された値で入力レコードを分割して更新します。<br>1～200の値を指定します。 |
| 7 | 更新試み件数 | 入力ストリームのレコードの数が設定されます。 |
| 8 | 成功件数 | データの更新に成功した数が設定されます。 |
| 9 | 失敗件数 | データの更新に失敗した数が設定されます。 |
| １０ | 失敗時エラーにする | 失敗件数が0以外の場合にエラーを発生させるかどうかを選択します。<br>・はい：エラーを発生します。<br>・いいえ：正常終了します。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

| 項番 | プロパティ名 | 説明 |
|---|---|---|
| １１ | 正常ログ<br>出力先 | 更新に成功したレコードのログを出力する為のファイルパスを指定します。<br>区切り文字「¥」と「/」は区別されません。<br>相対パスの場合は相対パスの起点の指定に基づいて解釈されます。<br>例：directory/file.txt　　C:¥directory¥file.txt　　¥¥server¥share¥file.txt |
| １２ | 相対パスの<br>起点 | 正常ログ出力先が相対パス指定の場合にベースディレクトリとして<br>何を使うかを指定します。<br>プロジェクトフォルダ<br>　- プロジェクトファイルと同じフォルダを起点にします。<br>ホームディレクトリ<br>　- ユーザのホームディレクトリを起点にします。<br>実行ユーザのホームディレクトリ<br>　- 実行ユーザのホームディレクトリを起点にします。 |
| １３ | エラーログ<br>出力先 | 更新に失敗したレコードのログを出力する為のファイルパスを指定します。<br>区切り文字「¥」と「/」は区別されません。<br>相対パスの場合は相対パスの起点の指定に基づいて解釈されます。<br>例：directory/file.txt　　C:¥directory¥file.txt　　¥¥server¥share¥file.txt |
| １４ | 相対パスの<br>起点 | エラーログ出力先が相対パス指定の場合にベースディレクトリとして<br>何を使うかを指定します。<br>プロジェクトフォルダ<br>　- プロジェクトファイルと同じフォルダを起点にします。<br>ホームディレクトリ<br>　- ユーザのホームディレクトリを起点にします。<br>実行ユーザのホームディレクトリ<br>　- 実行ユーザのホームディレクトリを起点にします。 |
| １５ | リトライ回数 | 通信エラー発生時に自動的にリトライするカウントを指定します。<br>何も指定しない場合はリトライしません。 |
| １６ | リトライ間隔 | 上記リトライ時に再度接続リクエストを送るまでの間隔を<br>ミリ秒単位で指定します。<br>何も指定しない場合は5000ミリ秒でリトライします。 |
| １７ | リクエストに<br>関連付 | リクエストに関連付けたログイン情報を利用する場合、″はい″に設定して下さい。<br>この機能を用いるには、同一リクエスト内のRESTLoginコンポーネントで<br>ログイン処理を行う際、リクエストに関連付を“はい”に設定する<br>必要があります。 |
| １８ | 通信ログ出力 | 通信ログを出力する場合は″概要″、または″詳細″に設定して下さい。<br>・概要：接続先URLとHTTPヘッダの内容を出力します<br>・詳細：上記に加えてHTTPボディの内容を出力します<br>・いいえ：通信ログを出力しません<br>通信ログはシステムログのFlowService.logに出力されます。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

| 項番 | プロパティ名 | 説明 |
|---|---|---|
| １９ | URL | ログイン成功時にREST APIから取得できるinstanceUrlが設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると、<br>セッションにこれらの情報を直接設定することが可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |
| ２０ | SessionID | ログイン成功時にREST APIから取得できるaccess_tokenが設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると,<br>セッションにこれらの情報を直接設定することも可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |
| ２１ | 入力順<br>sObject名 | 2つ目以降の入力ストリームについて、処理対象のsObject名が設定されます。<br>このプロパティは「更新対象の選択」ダイアログで複数のオブジェクトを<br>設定した場合に、自動的に設定されます。<br>入力名　　-　対象の入力ストリーム名です。<br>sObject名　　-　入力ストリームに関連付けるsObject名が指定されます。 |

RESTUpdateコンポーネントのストリーム情報は下表のとおり。

| | | |
|---|---|---|
| 入力 | フォーマット | Record |
| | 接続数 | 1-10 |
| | 説明 | 入力ストリームのフィールド定義を行います。<br>入力ストリームのフィールド名が、そのまま更新するsObjectのフィールド名として使用されます。したがって、入力ストリームのフィールド名としては必ず更新対象となるsObjectの正しいフィールド名を指定するようにしてください。<br>フィールド定義には必ずIdという名前のフィールドが必要となります。<br>このIdフィールドの値と更新対象のsObjectのIDフィールドが一致するデータが更新されます。 |
| 出力 | フォーマット | XML |
| | 説明 | REST APIのUpdateを実行した結果としてAPIサーバから返されるJSONデータがXMLに変換されます。<br>JSONデータの内容に関しましては、㈱セールスフォース・ドットコムのAPIドキュメントをご参照ください。 |

**ループ処理**

このコンポーネントがループの起点となることはありません。

RESTUpdateコンポーネントのトランザクション処理は下表のとおり。

| | |
|---|---|
| Commit | 何もしません |
| Rollback | 何もしません |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

**sObjectのDate型について　※Salesforce Rest API 49.0現在**

sObjectでDate型と定義されているフィールドに対して、ASTERIA WarpのDateTime型のデータを対応させると、タイムゾーンの関係で日付がずれる事があります。
したがって、sObjectでDate型と定義されているフィールドに対しては、ASTERIA WarpのString型のデータを対応させるようにしてください。
また、String型の内容としては、日付の情報が「yyyy-MM-dd」という文字列になるように設定してください。
例）2009年03月10日を設定する場合は、2009-03-10とString型に設定されるようにしてください。

**sObjectのTime型について　※Salesforce Rest API 49.0現在**

sObjectでTime型と定義されているフィールドは、GMT（グリニッジ標準時）で保存されています。
したがって、sObjectでTime型と定義されているフィールドに対しては、ASTERIAのString型のデータを対応させるようにしてください。
また、String型の内容としては、「HH:mm:ss」等の時間型フォーマットの末尾に「Z」を付加してください。
例）18時15分を設定する場合は、「18:15Z」とString型に設定されるようにしてください。

**「単位件数」プロパティについて**

REST APIでは一回の実行で処理できる最大のデータ件数は200件のため、**200件以上のデータを扱う場合**には、「単位件数」プロパティに値を指定することにより、データを指定したデータに分割して処理を行います。

**例）入力が500件で「単位件数」プロパティに200を指定した場合**
①200件、②200件、③100件と内部的に処理を実行します。
また上記の場合の処理②中に「RESTFault」を発生した場合
③は実行されず、ExceptionStreamに①の処理結果が設定されます。

**17桁以上の数値について（小数部を含む） ※Salesforce Rest API 49.0現在**

REST API を使用して17桁以上の数値を数値型の項目にデータを投入した際、
投入した値とは異なる値が作成されます。
また、17桁以上の数値を取得した際、保持された値とは異なる値が取得されます。
数値は近似値となり丸めが発生するためです。
近似値による誤差が許容できない場合、
REST API 以外の方法でデータ投入・取得を行って下さい。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

RESTUpdateコンポーネントのExceptionは下表のとおり。

| タイプ | パラメータ | Exceptionフローへのストリーム | エラーコード | 説明 |
|---|---|---|---|---|
| RESTFault | ※1 | Exceptionが発生した直前までのREST APIのUpdateを実行した結果としてAPIサーバから返されるXML。 | なし | 実行中にRESTFaultが発生した場合や、APIサーバがRESTFaultを返した場合 |
| 汎用 | なし | コンポーネントの入力ストリーム | 21 | 入力ストリームのレコード数が0だった場合 |
| | | | 22 | 入力ストリームのフィールドに「Id」という名前のフィールドがなかった場合 |
| | | | 30 | リトライ件数に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | 31 | リトライ間隔に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | なし | 「単位件数」に1～200以外の数値が設定された場合 |
| | | | なし | APIサーバがREST以外のレスポンスを返した場合 |
| 失敗時エラーの場合 | ※2 | REST APIのUpdateを実行した結果としてREST APIサーバから返されるXML。 | 25 | 失敗時エラーにするが「はい」の場合で、失敗件数が０ではない場合 |

（※１）パラメータ

| No | Name | Description |
|---|---|---|
| 1 | 入力件数 | 入力ストリームのレコード数 |
| 2 | 成功件数 | Exceptionが発生した直前までのデータの更新に成功した数 |
| 3 | 失敗件数 | Exceptionが発生した直前までのデータの更新に失敗した数 |

（※２）パラメータ

| No | Name | Description |
|---|---|---|
| 1 | 入力件数 | 入力ストリームのレコード数 |
| 2 | 成功件数 | データの更新に成功した数 |
| 3 | 失敗件数 | データの更新に失敗した数 |
| 4 | 正常ログ | 正常ログのファイルパス |
| 5 | エラーログ | エラーログのファイルパス |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

## ■「更新対象の選択」ダイアログの使い方

### ●「更新対象の選択」ダイアログを利用するための準備

「更新対象の選択」ダイアログを利用するためには以下の条件を満たしている必要があります。
1.コネクションペインまたは管理コンソールにて作成された専用コネクションを設定していること

### ●「更新対象の選択」ダイアログの起動方法

「更新対象の選択」ダイアログは次のいずれかの方法で起動します。
1.RESTUpdateコンポーネントのアイコンを右クリックして表示されるメニューの
「更新対象の選択」をクリックします。
2.RESTUpdateコンポーネントのアイコンをダブルクリックします。

### 画面構成




**1)sObjectリストパネル**
接続先のsObject一覧が表示されます。
上部の検索窓から、英語名と日本語名で絞り込み検索が可能です。
リストからsObjectをダブルクリックするとsObject詳細パネルにタブとして追加されます。

**(2)sObject詳細パネル**
リストで追加したsObjectの詳細が表示されます。
左側チェックボックスで選択したフィールドが入力フィールドに反映されます。
タブ上で右クリックから対象タブの削除メニューを呼び出せます。
詳細パネル上で右クリックから以下のメニューが呼び出せます。

・「すべてを選択」　チェックボックスをすべて選択状態にします。
※更新不可のフィールドはチェックされません。（Id列を除く）
・「選択をすべて解除」　チェックボックスを全て未選択の状態にします。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

●フィールド設定
選択されたフィールドは以下のデータ型でフィールドに設定されます。
※xsd:date型は、タイムゾーンの関係により日付がずれることを防止するためString型で設定されます。
※xsd:double型については、桁落ちを防止するためDecimal型で設定されます。
　String型、Double型にした場合桁落ちが発生する場合があります

| sObjectデータ型 | JAVAデータ型 |
|---|---|
| xsd:boolean | Boolean |
| xsd:double | Decimal |
| xsd:datetime | DateTime |
| その他 | String |

**「更新対象の選択」ダイアログ呼び出し時の同期について**
**sObject名とフィールド設定が設定されている場合、起動時に以下の情報が復元されます。**

sObject選択状態
フィールドチェック状態

**ご注意**
接続先に存在しないsObjectやフィールドの選択状態は復元されません。
※前回設定時と接続先やAPIバージョンが異なるケースが考えられます。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# ５．６　RESTDeleteコンポーネント

RESTDeleteコンポーネントの機能、プロパティ項目、適用方法について以下に示します。

| REST Deleteコンポーネント | | |
|---|---|---|
| REST APIのdeleteを使用してデータを削除します。<br>200件以上のデータを削除する時は、「**単位件数**」で指定した値にレコードを分割し、削除を行います。 | | |
| **項番** | **プロパティ名** | **説明** |
| 1 | 接続名 | **コネクションペイン**または**管理コンソール**にて作成された**専用コネクション**を指定することで以下の設定を行うことができます。<br>・Proxyサーバの使用の有無<br>（専用コネクションのパラメーター「プロキシを使用する」）<br>・通信時の無応答タイムアウト時間<br>（専用コネクションのパラメーター「タイムアウト(秒)」） |
| 2 | ロールバック | 削除に失敗したデータが存在する場合、ロールバックを行うかを指定します。<br>ロールバックを行う場合、入力可能なデータ数は200件に制限されます。<br>200件を超えるデータが入力された場合には、エラーが発生します。<br>※IDに空データが入力されてもエラーは発生しませんので、<br>ロールバックの対象とはなりません。 |
| 3 | 単位件数 | 指定された値で入力レコードを分割して削除します。<br>1～200の値を指定します。 |
| 4 | 削除試み件数 | 入力ストリームのレコードの数が設定されます。 |
| 5 | 成功件数 | データの削除に成功した数が設定されます。 |
| 6 | 失敗件数 | データの削除に失敗した数が設定されます。 |
| 7 | 失敗時エラーにする | 失敗件数が0以外の場合にエラーを発生させるかどうかを選択します。<br>・はい：エラーを発生します。<br>・いいえ：正常終了します。 |
| 8 | 正常ログ出力先 | 削除に成功したレコードのログを出力する為のファイルパスを指定します。<br>区切り文字「¥」と「/」は区別されません。<br>相対パスの場合は相対パスの起点の指定に基づいて解釈されます。<br>例：directory/file.txt　　C:¥directory¥file.txt　　¥¥server¥share¥file.txt |
| 9 | 相対パスの起点 | 正常ログ出力先が相対パス指定の場合にベースディレクトリとして何を使うかを指定します。<br>プロジェクトフォルダ<br>- プロジェクトファイルと同じフォルダを起点にします。<br>ホームディレクトリ<br>- ユーザのホームディレクトリを起点にします。<br>実行ユーザのホームディレクトリ<br>- 実行ユーザのホームディレクトリを起点にします。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

| 項番 | プロパティ名 | 説明 |
|---|---|---|
| １０ | エラーログ<br>出力先 | 削除に失敗したレコードのログを出力する為のファイルパスを指定します。<br>区切り文字「¥」と「/」は区別されません。<br>相対パスの場合は相対パスの起点の指定に基づいて解釈されます。<br>例：directory/file.txt　　C:¥directory¥file.txt　　¥¥server¥share¥file.txt |
| １１ | 相対パスの<br>起点 | エラーログ出力先が相対パス指定の場合にベースディレクトリとして<br>何を使うかを指定します。<br>プロジェクトフォルダ<br>　- プロジェクトファイルと同じフォルダを起点にします。<br>ホームディレクトリ<br>　- ユーザのホームディレクトリを起点にします。<br>実行ユーザのホームディレクトリ<br>　- 実行ユーザのホームディレクトリを起点にします。 |
| １２ | リトライ回数 | 通信エラー発生時に自動的にリトライするカウントを指定します。<br>何も指定しない場合はリトライしません。 |
| １３ | リトライ間隔 | 上記リトライ時に再度接続リクエストを送るまでの間隔を<br>ミリ秒単位で指定します。<br>何も指定しない場合は5000ミリ秒でリトライします。 |
| １４ | リクエストに<br>関連付 | リクエストに関連付けたログイン情報を利用する場合、<br>″はい″に設定して下さい。<br>この機能を用いるには、同一リクエスト内のRESTLoginコンポーネントで<br>ログイン処理を行う際、リクエストに関連付を“はい”に設定する<br>必要があります。 |
| １５ | 通信ログ出力 | 通信ログを出力する場合は″概要″、または″詳細″に設定して下さい。<br>・概要：接続先URLとHTTPヘッダの内容を出力します<br>・詳細：上記に加えてHTTPボディの内容を出力します<br>・いいえ：通信ログを出力しません<br>通信ログはシステムログのFlowService.logに出力されます。 |
| １６ | URL | ログイン成功時にREST APIから取得できるinstanceUrlが設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると、<br>セッションにこれらの情報を直接設定することが可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |
| １７ | SessionID | ログイン成功時にREST APIから取得できるaccess_tokenが設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると,<br>セッションにこれらの情報を直接設定することも可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

RESTDeleteコンポーネントのストリーム情報は下表のとおり。

| | | |
|---|---|---|
| 入力 | フォーマット | Record |
| | 接続数 | 1 |
| | 説明 | 入力ストリームのフィールド定義を行います。<br>フィールド定義には必ずIdという名前のフィールドが必要となります。<br>このIdフィールドの値とsObjectのIDフィールドが一致するデータが削除されます。<br><br>※APIの仕様により削除対象のsObjectの名称は必要ありません。<br>sObjectのIDフィールドのみを使用して削除されます。 |
| 出力 | フォーマット | XML |
| | 説明 | REST APIのDeleteを実行した結果としてAPIサーバから返されるJSONデータがXMLに変換されます。<br>JSONデータの内容に関しましては、㈱セールスフォース・ドットコムのAPIドキュメントをご参照ください。 |

**ループ処理**

このコンポーネントがループの起点となることはありません。

RESTDeleteコンポーネントのトランザクション処理は下表のとおり。

| | |
|---|---|
| Commit | 何もしません |
| Rollback | 何もしません |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

RESTDeleteコンポーネントのExceptionは下表のとおり。

| タイプ | パラメータ | Exceptionフローへのストリーム | エラーコード | 説明 |
|---|---|---|---|---|
| RESTFault | ※1 | Exceptionが発生した直前までのREST APIのDeleteを実行した結果としてAPIサーバから返されるXML。 | なし | 実行中にRESTFaultが発生した場合や、APIサーバがRESTFaultを返した場合 |
| 汎用 | なし | コンポーネントの入力ストリーム | 21 | 入力ストリームのレコード数が0だった場合 |
| | | | 22 | 入力ストリームのフィールドに「Id」という名前のフィールドがなかった場合 |
| | | | 30 | リトライ件数に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | 31 | リトライ間隔に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | なし | 「単位件数」に1～200以外の数値が設定された場合 |
| | | | なし | APIサーバがREST以外のレスポンスを返した場合 |
| 失敗時エラーの場合 | ※2 | REST APIのDeleteを実行した結果としてREST APIサーバから返されるXML。 | 25 | 失敗時エラーにするが「はい」の場合で、失敗件数が０ではない場合 |

（※１）パラメータ

| No | Name | Description |
|---|---|---|
| 1 | 入力件数 | 入力ストリームのレコード数 |
| 2 | 成功件数 | Exceptionが発生した直前までのデータの削除に成功した数 |
| 3 | 失敗件数 | Exceptionが発生した直前までのデータの削除に失敗した数 |

（※２）パラメータ

| No | Name | Description |
|---|---|---|
| 1 | 入力件数 | 入力ストリームのレコード数 |
| 2 | 成功件数 | データの削除に成功した数 |
| 3 | 失敗件数 | データの削除に失敗した数 |
| 4 | 正常ログ | 正常ログのファイルパス |
| 5 | エラーログ | エラーログのファイルパス |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

# ５．７　RESTUpsertコンポーネント

RESTUpsertコンポーネントの機能、プロパティ項目、適用方法について以下に示します。

REST Upsertコンポーネント

**外部ID**として設定されたカスタム項目を選択し、データを登録することで外部IDデータをキーとしてREST APIの**upsert**を使用してデータの更新・登録を自動的に行うことができます。
200件以上のデータを更新・登録する時は、「**単位件数**」で指定した値にレコードを分割し更新・登録を行います。

| 項番 | プロパティ名 | 説明 |
|---|---|---|
| 1 | 接続名 | **コネクションペイン**または**管理コンソール**にて作成された**専用コネクション**を指定することで以下の設定を行うことができます。<br>・Proxyサーバの使用の有無<br>（専用コネクションのパラメーター「プロキシを使用する」）<br>・通信時の無応答タイムアウト時間<br>（専用コネクションのパラメーター「タイムアウト(秒)」） |
| 2 | sObject名 | データを更新・登録する対象となるsObjectの名称を指定します。<br>sObjectの名称としては、REST APIのdescribeGlobalを実行して得られるnameの値を指定します。 |
| 3 | キー項目 | 外部IDとして設定しているカスタム項目を指定します。（例：External_Id__c）<br>外部IDの変わりにユニークなSalesforce IDを設定することもできます（例：Id） |
| 4 | ロールバック | 更新に失敗したデータが存在する場合、ロールバックを行うかを指定します。<br>ロールバックを行う場合、入力可能なデータ数は200件に制限されます。<br>200件を超えるデータが入力された場合には、エラーが発生します。 |
| 5 | Assignment RuleType | **sObject名**プロパティの値が**Case**または**Lead**の場合に表示されます。<br>更新するデータに適用する**assignment rule**のタイプを指定します。<br>**none**　- **assignment rule**を適用しません。<br>**default** - **default (active) assignment rule** を適用します。<br>**ID**　- 適用する**assignment rule**を**AssignmentRule**オブジェクトのIDで指定します。IDは**AssignmentRuleID**プロパティで指定します。 |
| 6 | Assignment RuleID | **sObject名**プロパティの値が**Case**または**Lead**の場合に表示されます。<br>**AssignmentRuleType**プロパティがIDの場合にのみ有効です。<br>**assignment rule**として適用する**AssignmentRule**オブジェクトのIDを指定します。 |
| 7 | 単位件数 | 指定された値で入力レコードを分割して更新します。<br>1～200の値を指定します。 |
| 8 | 更新・登録試み件数 | 入力ストリームのレコードの数が設定されます。 |
| 9 | 成功件数 | データの更新・登録に成功した数が設定されます。 |
| １０ | 失敗件数 | データの更新・登録に失敗した数が設定されます。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

| 項番 | プロパティ名 | 説明 |
|---|---|---|
| １１ | 失敗時エラーにする | 失敗件数が0以外の場合にエラーを発生させるかどうかを選択します。<br>・はい：エラーを発生します。<br>・いいえ：正常終了します。 |
| １２ | 正常ログ出力先 | 更新・登録に成功したレコードのログを出力する為のファイルパスを指定します。<br>区切り文字「¥」と「/」は区別されません。<br>相対パスの場合は相対パスの起点の指定に基づいて解釈されます。<br>例：directory/file.txt　　C:¥directory¥file.txt　　¥¥server¥share¥file.txt |
| １３ | 相対パスの起点 | 正常ログ出力先が相対パス指定の場合にベースディレクトリとして<br>何を使うかを指定します。<br>プロジェクトフォルダ<br>　- プロジェクトファイルと同じフォルダを起点にします。<br>ホームディレクトリ<br>　- ユーザのホームディレクトリを起点にします。<br>実行ユーザのホームディレクトリ<br>　- 実行ユーザのホームディレクトリを起点にします。 |
| １４ | エラーログ出力先 | 更新・登録に失敗したレコードのログを出力する為のファイルパスを指定します。<br>区切り文字「¥」と「/」は区別されません。<br>相対パスの場合は相対パスの起点の指定に基づいて解釈されます。<br>例：directory/file.txt　　C:¥directory¥file.txt　　¥¥server¥share¥file.txt |
| １５ | 相対パスの起点 | エラーログ出力先が相対パス指定の場合にベースディレクトリとして<br>何を使うかを指定します。<br>プロジェクトフォルダ<br>　- プロジェクトファイルと同じフォルダを起点にします。<br>ホームディレクトリ<br>　- ユーザのホームディレクトリを起点にします。<br>実行ユーザのホームディレクトリ<br>　- 実行ユーザのホームディレクトリを起点にします。 |
| １６ | リトライ回数 | 通信エラー発生時に自動的にリトライするカウントを指定します。<br>何も指定しない場合はリトライしません。 |
| １７ | リトライ間隔 | 上記リトライ時に再度接続リクエストを送るまでの間隔をミリ秒単位で指定します。<br>何も指定しない場合は5000ミリ秒でリトライします。 |
| １８ | リクエストに関連付 | リクエストに関連付けたログイン情報を利用する場合、″はい″に設定して下さい。<br>この機能を用いるには、同一リクエスト内のRESTLoginコンポーネントで<br>ログイン処理を行う際、リクエストに関連付を“はい”に設定する<br>必要があります。 |
| １９ | 通信ログ出力 | 通信ログを出力する場合は″概要″、または″詳細″に設定して下さい。<br>・概要：接続先URLとHTTPヘッダの内容を出力します<br>・詳細：上記に加えてHTTPボディの内容を出力します<br>・いいえ：通信ログを出力しません<br>通信ログはシステムログのFlowService.logに出力されます。 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

| 項番 | プロパティ名 | 説明 |
|---|---|---|
| ２０ | URL | ログイン成功時にREST APIから取得できるinstanceUrlが設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると、<br>セッションにこれらの情報を直接設定することが可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |
| ２１ | SessionID | ログイン成功時にREST APIから取得できるaccess_tokenが設定されます。<br>直前に配置したMapperから「URL」と「SessionID」の両方を入力すると,<br>セッションにこれらの情報を直接設定することも可能です。<br>この場合、ログイン処理は行われず、コネクションに設定された情報は<br>無視されます。 |
| ２２ | 参照設定 | 参照関係が存在する列に対して、<br>親オブジェクトの外部ID列を利用してUpsertを行う場合に設定します。<br>この設定を行う場合、入力ストリームの該当フィールド名には<br>「リレーション名」を設定する必要があります。<br><br>対象フィールド　：入力ストリームで設定した「リレーション名」を指定します<br>対象オブジェクト：参照している親sObject名を指定します<br>外部ID　　：Upsertに使用する「親sObjectの外部ID列名」を指定します<br>参照元フィールド：データが入力されなかった場合、指定フィールドを空で<br>作成・更新します。(オプション) |

RESTUpsertコンポーネントのストリーム情報は下表のとおり。

| | | |
|---|---|---|
| 入力 | フォーマット | Record |
| | 接続数 | 1 |
| | 説明 | 入力ストリームのフィールド定義を行います。<br>フィールド定義には必ず**「キー項目」**に指定したフィールドを含む必要があります。<br>参照関係を利用して更新を行う場合は、該当フィールド名には「リレーション名」を設定する必要があります。 |
| 出力 | フォーマット | XML |
| | 説明 | REST APIのUpsertを実行した結果としてAPIサーバから返されるJSONデータがXMLに変換されます。<br>JSONデータの内容に関しましては、㈱セールスフォース・ドットコムのAPIドキュメントをご参照ください。 |

**ループ処理**

このコンポーネントがループの起点となることはありません。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

RESTUpsertコンポーネントのトランザクション処理は下表のとおり。

| | |
|---|---|
| Commit | 何もしません |
| Rollback | 何もしません |

RESTUpsertコンポーネントのExceptionは下表のとおり。

| タイプ | パラメータ | Exceptionフローへのストリーム | エラーコード | 説明 |
|---|---|---|---|---|
| RESTFault | ※1 | Exceptionが発生した直前までのREST APIのUpsertを実行した結果として APIサーバから返されるXML。 | なし | 実行中にRESTFaultが発生した場合や、APIサーバがRESTFaultを返した場合 |
| 汎用 | なし | コンポーネントの入力ストリーム | 21 | 入力ストリームのレコード数が0だった場合 |
| | | | 30 | リトライ件数に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | 31 | リトライ間隔に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | なし | 「単位件数」に1～200以外の数値が設定された場合 |
| | | | なし | APIサーバがREST以外のレスポンスを返した場合 |
| 失敗時エラーの場合 | ※2 | REST APIのUpsertを実行した結果としてREST APIサーバから返されるXML。 | 25 | 失敗時エラーにするが「はい」の場合で、失敗件数が０ではない場合 |

（※１）パラメータ

| No | Name | Description |
|---|---|---|
| 1 | 入力件数 | 入力ストリームのレコード数 |
| 2 | 成功件数 | Exceptionが発生した直前までのデータの更新・登録に成功した数 |
| 3 | 失敗件数 | Exceptionが発生した直前までのデータの更新・登録に失敗した数 |

（※２）パラメータ

| No | Name | Description |
|---|---|---|
| 1 | 入力件数 | 入力ストリームのレコード数 |
| 2 | 成功件数 | データの更新・登録に成功した数 |
| 3 | 失敗件数 | データの更新・登録に失敗した数 |
| 4 | 正常ログ | 正常ログのファイルパス |
| 5 | エラーログ | エラーログのファイルパス |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

**sObjectのDate型について　※Salesforce Rest API 49.0現在**

sObjectでDate型と定義されているフィールドに対して、ASTERIA WarpのDateTime型のデータを対応させると、タイムゾーンの関係で日付がずれる事があります。
したがって、sObjectでDate型と定義されているフィールドに対しては、ASTERIA WarpのString型のデータを対応させるようにしてください。
また、String型の内容としては、日付の情報が「yyyy-MM-dd」という文字列になるように設定してください。
例）2009年03月10日を設定する場合は、2009-03-10とString型に設定されるようにしてください。

**sObjectのTime型について　※Salesforce Rest API 49.0現在**

sObjectでTime型と定義されているフィールドは、GMT（グリニッジ標準時）で保存されています。
したがって、sObjectでTime型と定義されているフィールドに対しては、ASTERIAのString型のデータを対応させるようにしてください。
また、String型の内容としては、「HH:mm:ss」等の時間型フォーマットの末尾に「Z」を付加してください。
例）18時15分を設定する場合は、「18:15Z」とString型に設定されるようにしてください。

**「単位件数」プロパティについて**

REST APIでは一回の実行で処理できる最大のデータ件数は200件のため、**200件以上のデータを扱う場合**には、「単位件数」プロパティに値を指定することにより、データを指定したデータに分割して処理を行います。

**例）入力が500件で「単位件数」プロパティに200を指定した場合**
①200件、②200件、③100件と内部的に処理を実行します。
また上記の場合の処理②中に「RESTFault」を発生した場合
③は実行されず、ExceptionStreamに①の処理結果が設定されます。

**17桁以上の数値について（小数部を含む） ※Salesforce Rest API 49.0現在**

REST API を使用して17桁以上の数値を数値型の項目にデータを投入した際、
投入した値とは異なる値が作成されます。
また、17桁以上の数値を取得した際、保持された値とは異なる値が取得されます。
数値は近似値となり丸めが発生するためです。
近似値による誤差が許容できない場合、
REST API 以外の方法でデータ投入・取得を行って下さい。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

## ■「作成・更新対象の選択」ダイアログの使い方

### ●「作成・更新対象の選択」ダイアログを利用するための準備

「作成・更新対象の選択」ダイアログを利用するためには以下の条件を満たしている必要があります。

1.コネクションペインまたは管理コンソールにて作成された専用コネクションを設定していること。

### ●「作成・更新対象の選択」ダイアログの起動方法

「作成・更新対象の選択」ダイアログは次のいずれかの方法で起動します。
1.RESTUpsertコンポーネントのアイコンを右クリックして表示されるメニューの
「作成・更新対象の選択」をクリックします。
2.RESTUpsertコンポーネントのアイコンをダブルクリックします。

### 画面構成




### (1)sObjectリストパネル

接続先のsObject一覧が表示されます。
上部の検索窓から、英語名と日本語名で絞り込み検索が可能です。
リストからsObjectをダブルクリックするとsObject詳細パネルに詳細が表示されます。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

### (2)sObject詳細パネル
リストで選択したsObjectの詳細が表示されます。
左側チェックボックスで選択したフィールドが入力フィールドに反映されます。
詳細パネル上で右クリックから以下のメニューが呼び出せます。

**パネル内でフィールド未選択時**
「すべてを選択」　チェックボックスをすべて選択状態にします。
※ただし、Id列、外部キー列を除き、作成・更新の両方が不可のフィールドはチェックされません。
「選択をすべて解除」　チェックボックスを全て未選択の状態にします。

**パネル内でフィールド選択時**
「すべてを選択」　チェックボックスをすべて選択状態にします。
※作成・更新の両方が不可のフィールドはチェックされません。(Id列、外部キー列を除く)
「選択をすべて解除」　チェックボックスを全て未選択の状態にします。
「キーに設定」　対象列がId列、もしくは外部キー列である場合のみ有効となります。
対象列をUpsert時のキー項目に設定します。
「参照設定を利用」　対象列が選択済みでリレーションが存在する場合のみ有効となります。
対象列を参照設定パネルに追加します。
この設定を行うと、対象列のフィールドはリレーション名で設定されます。

### (3)参照設定パネル
詳細パネル内のメニュー「参照設定を利用」から追加されます。
外部キー列を選択すると、Salesforceより設定可能な外部キー列の一覧が取得されますので、
任意の列を選択してください。
参照元フィールドの設定は必須ではありません。
参照元フィールドを設定すると、値が入力されない場合でも対象項目を空で更新することが可能となります。

### ●フィールド設定
選択されたフィールドは以下のデータ型でフィールドに設定されます。
※xsd:date型は、タイムゾーンの関係により日付がずれることを防止するためString型で設定されます。
※xsd:double型については、桁落ちを防止するためDecimal型で設定されます。
String型、Double型にした場合桁落ちが発生する場合があります

| sObjectデータ型 | JAVAデータ型 |
|---|---|
| xsd:boolean | Boolean |
| xsd:double | Decimal |
| xsd:datetime | DateTime |
| その他 | String |

**「作成・更新対象の選択」ダイアログ呼び出し時の同期について**
**sObject名とフィールド設定が設定されている場合、起動時に以下の情報が復元されます。**

sObject選択状態
フィールドチェック状態
キー項目の選択状態
参照設定　※少なくとも対象フィールドが設定されていること

**ご注意**
接続先に存在しないsObjectやフィールドの選択状態は復元されません。
※前回設定時と接続先やAPIバージョンが異なるケースが考えられます。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.




# 5．8　RESTLogoutコンポーネント

RESTLogoutコンポーネントの機能、プロパティ項目、適用方法について以下に示します。

| REST Logoutコンポーネント | | |
|---|---|---|
| Salesforce のOAuth トークンの取り消しを使用してアクセストークンをクリアします。<br>このコンポーネントを実行するフローと同一のセッションで、<br>事前にAPIサーバにログインしておく必要があります。<br>また、APIサーバからログアウトを行う接続の指定は接続名で行います。 | | |
| **項番** | **プロパティ名** | **説明** |
| 1 | 接続名 | **コネクションペイン**または**管理コンソール**にて作成された**専用コネクション**を<br>指定することで以下の設定を行うことができます。<br>・Proxyサーバの使用の有無<br>（専用コネクションのパラメーター「プロキシを使用する」）<br>・通信時の無応答タイムアウト時間<br>（専用コネクションのパラメーター「タイムアウト(秒)」）<br><br>また、この接続名からログアウト処理を行う接続の指定を行います。 |
| 2 | リトライ回数 | 通信エラー発生時に自動的にリトライするカウントを指定します。<br>何も指定しない場合はリトライしません。 |
| 3 | リトライ間隔 | 上記リトライ時に再度接続リクエストを送るまでの間隔を<br>ミリ秒単位で指定します。<br>何も指定しない場合は5000ミリ秒でリトライします。 |
| 4 | リクエストに関連付 | リクエストに関連付けたログイン情報を破棄する場合、<br>″はい″に設定して下さい。<br>この機能を用いるには、同一リクエスト内でログイン処理を行う際、<br>リクエストに関連付を“はい”に設定する必要があります。 |
| 5 | 通信ログ出力 | 通信ログを出力する場合は″概要″、または″詳細″に設定して下さい。<br>・概要：接続先URLとHTTPヘッダの内容を出力します<br>・詳細：上記に加えてHTTPボディの内容を出力します<br>・いいえ：通信ログを出力しません<br>通信ログはシステムログのFlowService.logに出力されます。 |

**ログアウト実行時の注意点**

RESTLogoutコンポーネントでログアウト処理を行うと、対象のユーザに結び付けられている
セッションIDがSalesforce側で破棄されます。
よって、並列に実行されているフローAとフローBに異なる接続名やリクエストを使用していても、
ログインしているユーザが同一であれば、フローAでログアウトを行うとフローBのログインも
無効となります。

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

RESTLogoutコンポーネントのストリーム情報は下表のとおり。

| | | |
|---|---|---|
| 入力 | フォーマット | 全て |
| | 接続数 | 1 |
| | 説明 | すべてのストリームを受け入れることができます。 |
| 出力 | フォーマット | 全て |
| | 説明 | 入力ストリームがそのまま出力されます。 |

**ループ処理**

このコンポーネントがループの起点となることはありません。

RESTLogoutコンポーネントのトランザクション処理は下表のとおり。

| | |
|---|---|
| Commit | 何もしません |
| Rollback | 何もしません |

RESTLogoutコンポーネントのExceptionは下表のとおり。

| タイプ | パラメータ | Exceptionフローへのストリーム | エラーコード | 説明 |
|---|---|---|---|---|
| RESTFault | なし | なし | なし | 実行中にRESTFaultが発生した場合や、APIサーバがRESTFaultを返した場合 |
| 汎用 | なし | コンポーネントの入力ストリーム | 10 | 事前にAPIサーバにログインしていない場合 |
| | | | 30 | リトライ件数に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | 31 | リトライ間隔に0以上の数値を指定しなかった場合 |
| | | | なし | APIサーバがREST以外のレスポンスを返した場合 |

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.

**お問合せ先**

**サポートセンター**
**電話番号 06-6906-5301**
**（土日、祝日を除く　9:00～17:00）**
**パナソニック デジタル株式会社**

Copyright（C） Panasonic Digital Co., Ltd. All rights reserved.